

カンボジアにおけるトンレサップ湖水上フェリーターミナルの提案 気候と共存する建築様式を活かした施設的设计

Proposal of Ferry Terminal on Tonle Sap Lake in Cambodia

Facility design utilizing the architectural style coexisting with the climate

○上田紗矢香¹, 佐藤信治²*Sayaka Ueda¹, Shinji Sato²

Cambodia is aiming for economic growth throughout the country by the tourism business. In particular after the civil war in recent years, Siem Reap, the second city of Cambodia, actively attract foreign tourists as a tourism city representative of Asia on the other hand, the current Cambodian sightseeing has been completed only by the Angkor monument group. Therefore, Cambodia sightseeing is a sightseeing resource other than Angkor Wat site site, floating village of Tonle Sap lake, green tourism of Battambang, The killing field of Phnom Penh etc. In Cambodia, which belongs to the tropical monsoon climate, the traffic function in the rainy season is a problem, so a new transportation network is required for the airway delayed by heavy heavy rain and a landway that must pass through a rough road Based on the above, this proposal will plan a waterfront ferry terminal for the Tonle Sap Lake fast ferry connecting the three cities. Through the addition of accommodation function and tourism function, Lake Tonle Sap is a new residential tourist destination in Cambodia It is aimed to be established as.

1. はじめに

カンボジアは観光事業によって国全体の経済成長を目指している。特に内戦を終えた近年、カンボジア第二の都市であるシェムリアップはアジアを代表する観光都市として外国人観光客を積極的に誘致している。

一方で現在のカンボジア観光はアンコール遺跡群のみで完結してしまっているのが現状である。そのためカンボジア政府はアンコールワット遺跡群以外の観光資源として、トンレサップ湖のフローティングヴィレッジ、バタンパンのグリーンツーリズム、プノンペンのキリングフィールドなどへ観光誘致を展開していく必要がある。また熱帯モンスーン気候に属するカンボジアでは、雨季の交通が課題となっている。そのため激しい豪雨によって遅延する空路や、水はげが悪くぬかるみやすい道を通過しなければならない陸路にかわる新たな交通網が必要とされている。以上を踏まえ、本提案では上記の3つの都市を繋ぐトンレサップ湖高速フェリーのための水上フェリーターミナルを計画する。またこの施設に宿泊機能や観光機能を併設させることにより、トンレサップ湖がカンボジアの新たな滞在型観光資源として発信されることを目指すものである。

2. 計画背景

2-1. カンボジア観光の現状

カンボジア経済は観光業によって支えられている。国債観光収入は2004年以降GDPの10%を超える値

で推移している。また2012年のカンボジアへの外交人訪問者数は350万人を超えている。来訪者数を好調に維持している一方で、観光業の長期的な課題としてアンコール以外の観光名所の創出が挙げられる。

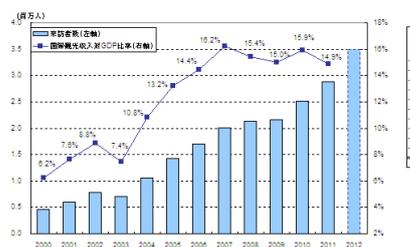


Figure1. Trends in Cambodia's number of visitorstourism, comparison with ASEAN region nations

2-2. 熱帯モンスーン気候と共存する人々

カンボジアは熱帯モンスーン気候に属している。そのため乾期には日差しが強く、雨季には頻繁にスコールが降る。この気候と共存するためにカンボジアの人々は高床住居、貯水池、フローティング技術などを取り入れている。

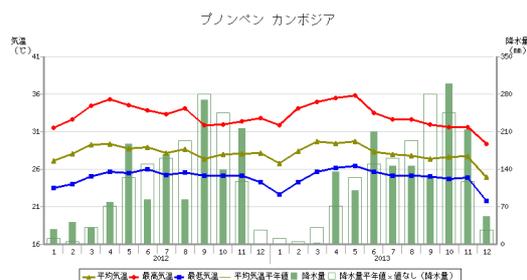


Figure2. Climate of Cambodia

1 : 日本理工・院・海建、Graduate school, Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon-Univ.

2 : 日大理工・専任講師・海建、Assistant Prof, Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon-Univ. Dr.

2-3. カンボジア国内の交通

カンボジア国内では飛行機,高速バス,鉄道,フェリーの4つの交通手段が採用されている.飛行機や高速バスが主に利用されている一方で,これらの交通手段では雨季のスコールによって頻繁に遅延や欠便が起きている.

3. 計画方針

3-1. 主要な観光都市を結ぶ交通拠点へ

本提案ではアンコールワット観光に偏るシェムリアップの外国人観光客をトンレサップエリア,バタンバン,プノンペンなどの主要都市に誘致していくための交通拠点を計画する.

3-2. トンレサップ湖観光の滞在拠点へ

本提案ではトンレサップ湖観光をより円滑に行えるよう観光提供,宿泊機能が交通と一体となる操作を行う.さらにカンボジア経済を支える縫製業や漁業を観光と一体となり提供することで,新たな産業発展を目指す施設とする.

4. 基本計画

4-1. 敷地選定

以上のことを踏まえて本提案では以下の5つの敷地選定条件を設定する.

- 1) シェムリアップ州に属していること
- 2) トンレサップ湖沿岸部に位置すること
- 3) スピードボートを利用するのに十分な水位が確保できること
- 4) カンボジアの伝統的なフローティングヴィレッジが近隣にあること
- 5) シェムリアップ市内中心部に続く国道と面していること

以上の敷地選定条件より敷地候補として Chong Khneas floating village(図中左)と Kampong Phluk floating village(図中右)を候補地として検討した.



Figure3. Plant site location

4-2. 計画敷地

選定条件より,カンボジアシェムリアップ州の Chong Khneas floating village を選定した.この村は観光客が多く滞在するオールドマーケット周辺やアンコールワット遺跡群から車で1時間の場所にある.またトンレサップ湖の湖上にはフローティングヴィレッジが広がっている.またトンレサップ湖に数カ所あるフローティングヴィレッジの中でも観光事業に積極的に取り組んでいる地域である.

5. 建築計画

5-1. 導入機能

本施設の主要機能として,交通部門,宿泊部門,生活部門(食堂・浴室),管理部門,観光産業部門を導入する.

5-2. 全体計画

カンボジア国内の移動における雨季の主要交通手段としてフェリーを活用するための交通拠点を計画する.そのために既存のフェリー航路やフェリーが運航可能な水深を確保しながら設計を行う.またトンレサップ湖における雨季と乾季の水位変化に対応できる柔軟な施設を計画する.建築デザインについてはカンボジアの伝統的なクメール建築の様式,フランス領時代に持ち込まれた連続窓,古来から生活に根付いている高床式などを用いたカンボジア独自のデザインを取り入れた計画とする.

5. 参考文献

- [1] Ministry of Tourism of Cambodia , World Tourism Organization , World Bank
- [2] 国土交通省気象庁
http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climatvie/w/graph_mkhtml.php?&n=48991&p=24&s=3&r=6&y=2013&m=12&e=5&k=0
- [3] メコン・ウォッチ(2004)「トンレサップ湖港湾建設プロジェクト」
- [4] Google Earth
- [5] 国際協力事業団(JICA)(2001)『カンボディア国別援助研究会報告書 - 復興から開発へ -』国際協力事業団
- [6] 笠井利之(2003)「カンボジア・トンレサップ湖地域の環境保全についての予備的考察」『立命館国際地域研究』第21号(2003年3月20日発行):41-64
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/ras/pdf/kt_kiyo/21/kasai.pdf